

創立150周年を迎えました

明治5年（1872年）、日本最初の近代学校制度に関する「学制」が公布され、各地に小学校が次々と誕生しました。

直方市立福地小学校は、同年に上境小学校として創立。当時は借家による仮設校舎のため場所は一定ではなかったそうです。その後、明治7年に校舎が定着した時の児童数は34人。当時の直方市域の小学校の児童の総数は485人でした。明治22年に福地小学校と改称され、現在の永満寺に新校舎が落成したのは明治27年のことでした。その後も改名、改築などの変遷を経て、今年度150周年を迎えました。

これまで伝統と歴史を紡いでこられた先人方へ感謝するとともに、これから大きく変化していく新しい時代を担う子どもたちの将来に向け、12月3日に記念式典が行われました。

式典では、同校の山野校長が、「本校は地域とともにあり、地域の皆さんに愛された学校である。直方で一番古いこの歴史と伝統を継承し、今後も特色ある学校づくりに努めていきたい」と挨拶。市長は「少子化、デジタル化が与える教育を取り巻く状況に、市は『未来



「継往开来（伝統を継承し未来を切り開く）」と刻まれた記念碑



校章をかたどった人文字



5・6年生による記念踊り「よさこいソーラン節」



記念植樹（十月桜と冬桜）

福地小学校は

<福地小の歩み>

- 明治 5年 上境小学校として本校舎が
仮設置
- 明治22年 福地小学校と仮称
- 昭和 3年 福地尋常小学校と改称
- 昭和22年 福地小学校と改称
- 昭和47年 創立百周年記念碑建立並びに
記念式典を開催
- 平成 3年 新校舎増改築落成

を拓く』という教育目標を掲げているが、福地小は保護者と地域が連携し、地域に根差した人材育成を行っており、感謝している」と祝辞を述べました。

式では、150周年を記念して全校児童と職員らで同校の校章をかたどった人文字の作成と、未来への思いをのせて飛ばしたバルーンリリースの様子が上映されました。その後、地域の方が作ったはっぴに身を包んだ5・6年生による記念踊り「よさこいソーラン節」が披露され、地域の皆さんで節目の年をお祝いしました。

《参考》直方市史



昭和46年の福地小（旧校舎）



福智山連山と高取焼の焼窯をモチーフにした現在の福地小

